



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2026 年 7-9 月号

Vol.74

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈りをありがとうございます。

4 月から次女が小学 1 年生になったことで家族の生活リズムが変化しました。義母との二世帯同居がはじまった昨年 11 月の引っ越しとあわせて変化の多い半年でしたが、新しい生活のなかでたくさんの恵みが与えられていることを噛みしめています。前回のレターでも申しましたように、妻（純子）は新たに仕事を始めました。日本人医師でクリスチャンの公文和子さんが 2014 年に始めたケニアで障がい児とその家族を支援する「シロアムの園」という働きの日本の支援団体のひとつ「NPO 法人 シロアムの友の会」の事務の一部などをリモートでの作業を中心に担うことになりました。「困難を抱えた海外の子どもたちに仕えたい」という、純子が抱き続けてきた思いとも重なりますし、これまで「陣内俊を支える会」や FVI で担っていた支援者の方々への情報発信、フォローアップや領収書送付などの働きをしてきた技能や経験が十二分に活かされる働きに導かれたことに神の配剤の妙を感じています。

「シロアムの園」は FVI と直接的なつながりがあるわけではないのですが、社会制度的にも文化的にも日本以上に困難な状況にあるケニアの障がい児とその家族という「声なきもの」の友となろうとしている公文医師の働きの力になれることは FVI の理念とも合致します。以下に「シロアムの園」とその国内支援組織「NPO シロアム友の会」の HP リンクを掲載します。

よろしければ働きのことを知ってくださいましたら幸いです。



公文医師とケニアの子ども 「シロアムの園」HP より転載

シロアムの園



NPO 法人 シロアムの友の会



8 月を北海道で過ごすようになって 4 年

2013～2015 年の 2 年間、鬱病で休職しました。一部このレターでもお伝えしましたが、寛解後の数年は頻繁に再発を繰り返していました。鬱が発症すると 2 か月間は起き上がることもできず、不安愁訴に苦しめられ、感情も表情も動かないので家族と過ごすことも困難になります。毎年 8 月後半から 9 月前半に再発が集中しているパターンに気づき、猛暑で「脳が煮えてくる」感覚と関係があるのではないかと考え、猛暑による気象病の一種かもしれないと仮説を立てて夏を北海道で過ごすことを始めたのが 2023 年のことでした。「夏はこちらに来たらいいよ」と長らく言ってくれていた札幌の友人がいたことと、道東で「川湯ビレッジ」を運営する友人がいてくれたおかげで思い切って「プチ二拠点生活」を試すことができました。

今年の 7 月後半も例年のように「脳が煮える」という感覚があり、徐々に思考が混濁し、感情も徐々に消失していくのを感じました。7 月 27 日に気温 19 度の女満別空港に降り立ったとき、脳がクリアになり「長い悪夢から醒めた」ような感覚を得ました。8 月の後半は札幌の友人宅で過ごし、今年はそのうちの 5 日、家族が合流して夏休み旅行を楽しみました。渡航費など諸々の理由で「毎年」というわけにはいきませんが、家族と北海道で過ごす時間は格別です。

転地療養の目的に加え、北海道には様々な時期に様々な文脈で知り合った友人・知人がいますので、その方々と旧交を温める貴重な 5 週間でもあります。自分の人生とその方々の人生が不思議な形で絡み合い影響し合っている中に、神の愛の計らいを垣間見ます。FVI では「カタリスト（触媒）」という言葉を使うのですが、北海道にいる 5 週間、「カタリスト」として神様に用いていただいていることを普段以上に強く感じます。

ちなみに 2023 年以降、鬱は一度も再発していません。北海道で受け入れホストしてくれている友人や知人たちのおかげであり、皆様のお祈りのおかげでもあります。この場を借りて、様々な形で「プチ二拠点生活」を支えてくださっている皆様に改めて感謝を申し上げます。



札幌滞在中にホストしてくださっている土島夫妻と



8 月中旬 厚真の海岸にて

少しずつだが確かに広がる LGBTQ+ アライの連帯

「福音的 LGBTQ+アライ」を名乗って当事者との連帯や性的マイノリティを擁護するキリスト教的発信を続けています。『ノンバイナリー協奏曲』という本の中で著者アミア・ミラーさんは息子のノンバイ

ナリーのカミングアウトに向き合い、「息子を守るためにアライとして生きていく」と決意しますが、こうも書いています。「差別行為を堂々としている人に、『それって違います』と言うのには勇気がいる。複雑で、誰もが感情的になりがちなこの問題では、行動にリスクが伴う。でも、動いて、動きながら知識を得るのだ。自分の子どもの人権になるとムキになるのが母親なのだ。(中略)これから難題に取りかかるのだ。大きな問題にぶち当たっていくのだ。痛いだろう。嫌がられるだろう。時には怖い目に遭うかもしれない。しかし、子供や、いや私も含めてマイノリティーと思われる人を守るのは、人間としての義務なのではないだろうか。」(156～157 頁)

「同性愛者は罪深い存在だ」などの心無い言葉や「教え」により今も当事者が苦しんでいるキリスト教会のなかでアライであることは簡単ではありませんから、アライにもアライが必要です。今年に入ってからキリスト教の働きをしている方や様々な教団の牧師と知り合う機会がありました。その度に福音派の牧師や働き人から「陣内さんの動画、いつも見てますよ」と声をかけていただきました。その方々はキリスト教による性的マイノリティ差別や排除に心痛めており、私の動画から学び、共鳴してくださっていると口々に言ってくださったのです。「たいへん有益な情報発信をありがとうございます」。中には私との対談動画に出演して共に発信することを快諾くださった方々もいらっしゃいます。アライである私の周囲に当事者や非当事者のアライの連帯が築かれつつあります。静かですが、確実に何かが変わり始めています。皆様のお祈りに感謝申し上げます。

礼拝説教要約 『日本人としてクリスチャンであるとは』

昭和のキリスト者知識人・山本七平は著書『日本教徒』という本のなかで日本人クリスチャンのことを「日本教キリスト派」と呼びました。人間は無意識下で影響を受けている文化の影響を自覚することが難しいため、無自覚に日本的価値観とキリスト教を混同するのです。「人に迷惑をかけない」という絶対的規範は果たして本当に聖書的なのでしょうか？あるいは「リスクを取らない」という日本の行動規範や「世間様に逆らわない」という空気の支配はどうでしょう？どれも聖書に根拠づけられないどころか、聖書は逆のことを教えていることにも気がきます。ローマ 12 章 2a 節「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい」を生きるためには「自分の中の無自覚な（非聖書的な）日本的規範」を自覚することが大切です。

日本的な「空気の支配」が問題となるのは虐めや人権問題においてです。たとえばジャニー喜多川による性加害問題は 90 年代には業界で「公然の秘密」として知られていましたが、報道したら業界から排除されるという「空気の支配」により新聞もテレビも週刊誌も口を閉ざしました。そんな中、ジャーナリストの松谷創一郎さんは早い時期から声を挙げていましたが、彼はクリスチャン家庭で育ちました（「ビデオニュース」2023 年 7 月 1 日公開の動画より）。また、実名告発によって海外メディアを動かし日本の報道の先鞭をつけたカウアン・オカモトさんもクリスチャンです（同動画より）。同調圧力に抗い「声なきもの」のために勇気をもって声を挙げるこそローマ 12:2 の実践だと思わされる事例です。

一方で日本には聖書的な美德もあります。西欧のクリスチャンと話していて「日本のクリスチャンが羨ましい」と言われることがあります。クリスチャンであることが少数派で「難しい」からこそ、日々祈り、神に頼りながら真剣に信仰している姿は「社会全体がキリスト教的」である欧米ではあまり見られない姿だからです。また、自然を大切にするという姿勢は神様が被造物をケアするために日本人に与えてくださった美德だと私は考えます。日本人であることを喜びつつ、それに呑み込まれない「芯のある生き方」を神は願っておられるのではないのでしょうか。（7 月 12 日 於 幡ヶ谷バプテスト教会）

祈りの課題

- ◇純子・かなえ・ななみ・俊の体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇FVI の今後のため。10 月の FVI 総会を通して主が指針を与えてくださるように。
- ◇LGBTQ+アライのクリスチャンや牧師や働き人との連帯が広がっていくように。社会や教会が多様性を言
祝ぐ包摂的なものに変えられていくように。
- ◇4 年ぶりに世界食糧デー岡山大会で奉仕します。参加される方々に必要なメッセージが語られるように。
- ◇YouTube、Podcast、メルマガ、note などでの情報発信が用いられ、必要な人に届くように。志をともに
する「ゆるやかな共同体・コミュニティ」が築かれていくように。

2026 年 9 月以降の主な活動と予定

月 日	内 容	場所、補足
9 月 20 日	礼拝説教	幡ヶ谷バプテスト教会（渋谷区）
10 月 18 日	世界食糧デー岡山大会講演	西大寺キリスト教会
10 月 26 日	FVI 総会	東京武蔵野福音自由教会
随時継続的に	教会を建て上げる情報発信／訓練／啓発（エペソ 4：12）	国内各地／オンライン

* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

「陣内俊を支える会」へのご連絡：陣内純子 Email:junkom612@gmail.com

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

- *振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- *振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- *Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。